

関西支部 LMAG 第 12 回現地講演会記録

2017/11/22

講演会の概要

http://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting_099.html を参照。

日時

2017 年 11 月 22 日(水) 14:00-17:00

場所

国立国会図書館関西館 第一研修室

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

電話：代表（自動音声案内） 0774-98-1200

アクセス <http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/guide/route.html>

参加者

14 名（うち IEEE 会員・LMAG 5 名／LMAG 以外 5 名、非会員 4 名）

講演者、国立国会図書館関西館の関係者を含まず。

名古屋 LMAG からの参加者 1 名を含む。

施設概要と見学

片山館長からの挨拶ののち、国立国会図書館の概要の説明を伺った。

- ・ 1948 年開館。我が国唯一の国立図書館。納本図書館。

- ・ 東京本館、関西館、国際子ども図書館(東京都台東区)の 3 施設が機能分担して一体的にサービスを実施

- ・ 900 人弱（非常勤。委託業者を除く）の職員が勤務

- ・ 2002 年開館の関西館では資料提供サービス、図書館協力、電子図書館事業等を

展開

見学ではまず施設の見学を行った。広々としていて閑静な閲覧室バックヤードの見学をさせてもらった。

ついで、蔵書の痛みを最小限にするように温度 22°C、湿度 55%にコントロールされた地下の 2, 3, 4 階の書庫を見学させてもらった。

博士論文が収められているのも興味深かった。

講演者

本田伸彰氏(国立国会図書館関西館電子図書館課研究企画係係長)

講演概要

講演：国立国会図書館における電子情報の長期保存に向けた取組み

国立国会図書館では、古い所蔵資料のデジタル化やインターネット上のウェブサイトの時系列で収集保存する「WARP」など、電子図書館事業を進めている。一方で、音楽 CD や DVD、フロッピーディスクのソフトウェアなど、メディアに納められた形で発行される電子出版物を「納本制度」により収集している。これら事業を通じ、国立国会図書館が収集保存する多様な電子情報は、年々その数を増やしている。また、電子情報を長期にわたって保存し、利用を保証することは当館のみならず、世界中の図書館やアーカイブ機関の課題となっている。今回の講演では、当館における電子図書館事業の概要に触れた上で、電子情報の長期保存に向けた取組みについて紹介いただいた。

写真



交流会

講演会終了後、名古屋 LMAG から遠路参加された市川 Chair を交えて、LMAG の進め方や関西+名古屋連携の案などを語る交流の場を持った。

以上